# 今こそ刻もう「日本の心」

新年明けましておめでとう御座います。災害大国の日本に住む私達にとって、「不安心」は拭いきれませんが、良い運を引き寄せるのは自分自とって、「不安心」は拭いきれませんが、良い運を引き寄せるのは自分自とって、「不安心」は拭いきれませんます。災害大国の日本に住む私達にます。災害大国の日本に住む私達にます。災害大国の日本に住む私達に

ょう。

さて、ボーダーレス時代の今日、さて、ボーダーレス時代の今日、

ります。

のなけるでは異が称賛した「平和大国は、大世代を担う「国の宝」ともないに、我がまま放題、し放題。ないのに、我がまま放題、し放題。ないのに、我がまま放題、し放題。ながらに、我がまま放題、し放題。ながらに、我がまま放題、し放題。ながらに、我がまま放題、し放題。ながに染まりすぎた現代日本の青少ながに、ながますがででしょうか?物や情報が溢れかえど「不安」を強いられた時代があった。

りに、尊くも切ない親子の愛の物語私から皆様へ、新春のご挨拶代わ

灯そうではありませんか。の奥底に眠る自らの熱い魂の明かりをどこか懐かしい「日本人の心」に、心本物の信頼関係と絆の深さに触れ、をご紹介させていただきます。

摝蝺摝摝摝摝摝摝鵣鵣鵣鵣鵣鵣鵣鵣鵣鵣鵣鵣鵣

## ●【「蟹工船(かにこうせん)】

映 多喜二は特高警察の拷問を受けながら、 者の小林多喜二(こばやしたきじ)氏。 当時は、その内容が反社会的であると 世界各地で翻訳もされるほど有名にな 材 信念に生きた一人の青年の物語です。 コリ笑って亡くなりました・・・。そんな 締まる特高警察に検挙されてしまう著 った『蟹工船』ではありますが、戦前 《母は俺の「太陽だ」》と言って、ニッ う理由から、思想・社会運動を取り (画化もされたり、小説は増刷され、 の演劇を鑑賞してきました。今では 実は昨年末、ずっと楽しみにしてい 『蟹工船 (かにこうせん)』という題

を抑えることが出来ません。
と、憤りを感じると共に、小林多喜二た。時代が違えばこうも違うのか・・・
た。時代が違えばこうも違うのか・・・
持った青年の生涯を大きく狂わせまし

る闘いと、当時、緊急課題である侵略内容は、極限状態の中で労働者が求めてもそも『蟹工船』で描かれている

人間賛歌です。 人間賛歌です。 として、今を謳歌する現代人に信念のとして、今を謳歌する現代人に信念のとして、今を謳歌する現代人に信念のとして、今を謳歌する現代人に信念のとして、強級闘争として見事に描いた作品

さい。

さい。

当欄で皆様にご紹介したい話は、『蟹との溢れんばかりの愛情物語です。青年と母の壮絶で、かつ感動的です。青年と母の壮絶で、かつ感動的です。青年と母の治れんばかりの愛情物語と、母との溢れんばかりの愛情物語は、『蟹性の質が、

### 【「日本の心」ここにあり】

の酷い拷問でした。
『蟹工船』を書いた青年作家・小林の酷い拷問でした。

会が許されることになりました。る多喜二のお母さんに、5分間だけ面に入れられますが、北海道の小樽にい多喜二はやがて東京・多摩の刑務所

訴えました。
さているうちに多喜二に会いたい」とらの手紙を読んでくれた人に、「5分もらの手紙を読んでくれた人に、「5分もらの手紙を読んでくれた人に、「5分もった。

着きました。

「何とか往復の汽車賃だけを借りてに何とか往復の汽車賃だけを借りていが、近回を乗り継

するとお母さんは悪らしながら小樽から駆け付けたお母さんに火鉢を持ってきました。お母さんに火鉢を持ってきました。お母さんに火鉢を持ってきました。

火鉢をよたよたと抱えて面会室の端から、私もいいです」と、「多喜二も火にあたっていないんだ

ていません。それでも、お母さんは車中、ほとんど何も食べうどんを温め直して差し出しました。今度は別の看守が朝に食い残したに置きました。

置きました。 **いいです**」と、これも火鉢のそばに 「**多喜二だって食べていないから** 

時間ピッタリに看守に連れられてひれ伏してしまいました。 でひれ伏してしまいました。 てひれ伏してしまいました。 すがいがしてしまいら滝のような涙を流してひれ伏してしまいました。 かずが 5 分の面会時間です。

ください。あと2分ですよ。た看守が「お母さん、しっかりして言葉に詰まったお母さんを見かね

と言いました。 何か言ってやってください\_

2分間繰り返したそうです。 一に向かって、この言葉だけを残り ハッと我に返ったお母さんは、 多喜

多喜二よ、お前の書いたものは、 はね、おまえを信じとるぞよ」 つも間違っておらんぞ。お母さん

再び小樽に帰りました。 その言葉だけを残し、お母さんは

亡くなったのです。 太いステッキで全身を殴打され、体 築地警察署の特高に逮捕され、拷問 に何か所も釘か何かを打ち込まれ、 によりその日のうちに絶命しました。 やがて出獄した多喜二は、今度は

言っているようです。 ッキを振り上げようとすると、多喜 一が右手を挙げて、しきりに何かを もはや最期の時、特高がまだステ

うな声で言いました。 すると多喜二は肺腑から絞り出すよ 特高がコップ一杯の水を与えました。 「言いたいことがあるなら言え」と

った人間は必ず天国に行くという 大罪を犯しても、**母親に信じてもら** には落ちません。なぜなら、どんな 「あなた方は寄ってたかって私を地 へ落とそうとしますが、私は地獄

じてくれました。母は私の太陽です。 母は私の小説は間違っていないと信 昔からの言い伝えがあるからです。

> 母が私を信じてくれたから、必ず私は 天国に行きます。」

世を去ったのでした。 そう言って、彼はニッコリ笑ってこの

多喜二の小説は一行も読んではいない のです。 か読めません。そうです、お母さんは お母さんは、字はひらがなぐらいし

じている」と言ってくれました。 ことはしていない。「母さんはお前を信 母はオレの太陽だ」と言ったのです。 そういうお母さんに対し、多喜二は しかし、自分の生んだ子は間違った

ださい。カミ様になってください。 そして、誰も真似できない太陽を胸に 男は、たくましく、優しい日本人の男 遠の心棒です。 立してください。それが、皆さんの 輝かせた自分というものをシッカリ確 になってください。 女性の皆さん、日本人の母になってく

※「日本の心」作家・境野勝悟より引用 皆さん、いかがですか?

#### 母は太陽なんです。 母は偉大です。

便利で快適も良いけど、何か大事なも のを忘れちゃいませんか? 良き年にしましょうね。 心には、輝く太陽を抱いて 新たな年が始まりました。

### <u>ب</u> 報

<sup></sup>瀊癓嬔摝鵣摝鵣鵣鵣鵣鵣鵣鵣鵣鵣鵣鵣鵣鵣

想を述べておられました。 年を迎えられそうです」等々という感 来年もぜひ参加させていただきます」。 うございました」。「人生初の水行で 開催当日は天候にも恵まれ、足を運ば 盛会裏に終えることができました。 そして水行参加者が三位一体となり 祭・ほしまつり』は、表舞台と裏舞台、 ドキドキしましたが、最高の気分です。 水行後は「素晴らしい経験をありがと 20名を超え、総勢28名を数えました。 ており、今開催の参加人数も遂に 水行に臨まれる参加者数は年々増 れるほどの大盛況となりました。 れる方も多く、知人や友人、カメラマ 12月8日に開催した『第9回冬至水行 ンなどの観覧者で水行場が埋め尽くさ 「清々しい気持ちで心機一転、新たな 加

渦に巻き込みました。 ださった皆様にとって、忘れることの た皆様にとって、また水行場で観覧く 験が、その人を成長させる節になるも の女性の水行など…、観る者を感動の 員会一同本当に嬉しく思っております。 できない時間を共有できたことに、委 のと信じます。水行にご参加くださっ 女児の挑戦があったり、最年長は8歳 また、水行者の中には最年少で3歳 心を揺り動かされるほどの感動と経

文化の1つ、「水行(禊)」を実践体 一人でも多くの方々が、日本の伝統

**滐牃牃牃牃牃牃牃牃牃牃牃牃牃牃** 

峰と、日本海の荒波をイメージして 感なされますことを願って止みませ なりました。 せられる、これ以上ない法楽神楽と 音色は、悠久の時間と空間を感じさ ぎょうか)』。本堂に響き渡る合奏の して作曲されたという『風行歌(ふう 行われました。富山の雄大な立山連 楽演奏家・下宮高純様と魚津蜃気楼 太鼓、そして仏具でのセッションが ん。本堂での「ご祈祷会」では、

でも多くの方がご参加になり、実践 と「反省」の気持ちに乗せて、一人 り起こしを目指す真成寺が三位 方々の敬虔な気持ちと、その気持ち 験に勝る力なし! 体感くださる事を願っています。 になっている証だろうと思います。 かい心、そして日本の伝統文化の掘 に応えようとするスタッフ一同の しまつり」は、水行にご参加下さる 『第 10 回 心に抱く様々な思いを、「感謝 年々盛り上がる「冬至水行祭・

催します。初めての方も、毎年ご参 お待ちしております。 加くださる方々も、次回の水行祭で は、平成2年1月1日(日)に開

冬至水行祭・ほしまつり

実行委員会スタッフー 委員長 谷川寛敬 冬至水行祭・ほしまつり実行委員会